

【地医教第3号①様式】地域包括ケアシステム推進事業等(4-(12)-①関係)

事業実績報告書

実施年月日	令和5年7月1日-令和6年7月31日
助成事業等の 実施内容	<p>地域多職種協働実習を以下日程で実施した。</p> <p>【実習前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク(実習中に体験したいこと・知りたいこと等の共有、実習地域概要の確認) ・各医療専門職の仕事内容に関する講義 <p>【夕張実習】</p> <p>日程：令和5年9月12日-9月15日</p> <p>実習場所：夕張市立診療所、夕張市役所、介護予防事業真谷地老人クラブ 真谷地会館</p> <p>実習概要：介護予防事業への参加、保健師からの講話、地域医療に携わるスタッフとの懇談会、診療所でグレーゾーンカンファレンスへの参加、生活支援サポーター養成講座への参加</p> <p>【茨城実習】</p> <p>日程：令和5年9月2日、10月7日、10月28日、12月2日</p> <p>実習場所：医療法人博仁会関連施設(フロイデ水戸メディカルプラザ、志村大宮病院周辺施設)、茨城県常陸大宮市北富田地区</p> <p>実習概要：朝市への参加、医療スタッフとの懇談会、志村大宮病院周辺施設の見学、茨城県常陸大宮市北富田地区のもちつき大会参加および独居訪問</p> <p>3 質問紙調査の実施</p> <p>地域多職種協働実習の授業改善を目的として、多職種協働やチーム医療に対する学生の学習準備性や意識変容の評価尺度で国際的に利用されているReadiness of health care students for interprofessional learning(RIPLS)に基づいた質問紙調査を実習前後で実施した。</p>

<p>助成事業等の 実施成果</p>	<p>【学会発表】</p> <p>本事業の成果を令和6年6月7日-6月9日で開催される第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で以下3演題を活動報告および研究として発表を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究1件 <p>演題名：コメディカル学生に対する地域多職種協働実習について-RIPLS尺度を用いて-</p> <p>演者：茨城県立医療大学 保健医療学部 放射線技術科学科 安江 憲治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動報告2件 <p>演題名：地域多職種協働実習での学び ～夕張市の地域包括ケアシステムを通して～</p> <p>演者：茨城県立医療大学 保健医療学部 放射線技術科学科 3年 中野 景悠</p> <p>演題名：学年早期から地域多職種協働を学ぶ意味 —専門性がより深まる夕張市役所福祉総合ケース会議から—</p> <p>演者：茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療法学科 3年 渡辺 心優</p> <p>【広報事業について】</p> <p>地域多職種協働実習の取り組みについて、4月に配布予定として、現在リーフレットを作成した。リーフレットについては4000部印刷し、第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(令和6年6月7日-6月9日および茨城県立医療大学オープンキャンパス(令和6年7月13日-14日)等で配布した。</p>
------------------------	---

注 1 事業実績報告書については任意の様式によることも可能：A4の用紙（定型のフォーマット無し）1,000文字程度（図・表を入れても問題ありません）

学生コメント

この実習に参加して、地域や地域医療の様子を見て肌で感じ、地域で働くことの意義を感じることができました。

夕張市

住み慣れた地域で最期を迎えたいという住民の願いを多職種協働によって叶えることの大切さを学びました。

講義では学ぶことができない、地域医療の現場見学や地域医療にとりくんでいる方々の生の話をきくことができました。

医療職と行政が連携し、地域住民のケアを行うことでよりよいサポートが提供できると感じました。

志村フロイデグループ

医療職としてだけでなく、1人の人間として患者さん、地域の人と関わっていくことの重要性を学びました。

医療職が積極的に地域と関わろうとする意識の大切さが分かりました。



〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2
TEL.029-888-4000 [代表]

担当教員

看護学科：山口忍 齊藤瑛梨

理学療法学科：篠崎真枝

作業療法学科：堀田和司

放射線技術科学科：安江憲治

本誌は一般社団法人地域医療教育研究所の地域包括ケアシステム推進事業に係る助成金で作成しました。

茨城県立医療大学 地域多職種協働実習

誰かのために、
未来の自分をつくる場所



実習概要

地域概要、保健・医療・福祉の現状を概観し多職種連携協働について考えを深め、今後の多職種協働の在り方について考察し、各々専門職としてのアイデンティティの確立やチーム医療連携の姿勢を育む

 **茨城県立医療大学**
IBARAKI PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

夕張市



ゆるリラ講座

ゆるリラ講座などの体操教室は「高齢化率日本一から健康寿命日本一へ」を目指す上で重要な活動だと感じました。



真谷地地区体操教室

安心して住み慣れた環境で暮らしていきたいという住民の思いにこたえる支援を身をもって学ぶことができました。

夕張市石炭博物館

住民から炭鉱が栄えていた時代の話をお聞かせいただきました。石炭博物館では夕張市の歴史も学ぶことができました。



夕張市役所 福祉総合ケース会議

多くの職種が集まり専門性をいかして議論している姿をみました。将来、地域医療に関わっていくイメージがつかめました。



夕張市立診療所

新しい診療所を見学しました。



宿泊施設

実習中3泊した宿泊施設「ホステルひまわり」食事が美味しかったです！花火もしました。

志村 フロイデグループ



志村大宮病院見学

志村大宮病院を中心とした医療、介護施設を見学し、患者さんだけでなく、地域住民にも目を向け地域包括ケアを行っていると思いました。

志村フロイデグループ 介護予防教室への参加

介護予防教室が「楽しめる場所」というプラスのイメージの定着があれば行きやすくなるでしょう。健康な人でも参加することで病気や怪我予防になると感じました。



水戸メディカルプラザ朝市参加

朝市によって新しいコミュニティができ、他人と会話する機会が得られることで地域住民の心の健康にもつながることが分かりました。



カフェミッデンヴァルト (水戸メディカルプラザ)

管理栄養士が考えた地産地消のランチやデザートが食べられます。カフェが憩いの場となることで、地域住民の繋がりができると感じました。



茨城県常陸大宮市北富田地区のもちつき参加

地域の方にお餅を届けました。地域住民も参加したもちつき大会は、北富田地区に住んでいる住民の見守りや地域コミュニティ形成の役割も担っていました。

コメディカル学生に対する地域多職種協働実習の評価
-RIPLS 尺度を用いて-

安江 憲治¹⁾, 篠崎 真枝²⁾, 堀田 和司³⁾, 齊藤 瑛梨⁴⁾, 山口 忍⁴⁾

- 1) 茨城県立医療大学 保健医療学部 放射線技術科学科
- 2) 茨城県立医療大学 保健医療学部 理学療法学科
- 3) 茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療法学科
- 4) 茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科

【背景】

本実習は、自治体の地域概要やプライマリケアの現状を概観し、自治体における多職種連携協働について考えを深めることを目的として、地域多職種協働実習を看護、理学療法、作業療法、放射線技術科の学科1-2年生を対象に令和4年度から実施している。

【目的】

本実習前後でIPEコースの評価指標に用いられるRIPLS(Readiness of health care students for interprofessional learning)を中心としたアンケートを実施し、教育効果を評価する。

【研究デザイン】

対象は令和4年度地域多職種協働実習履修学生とし、実習前後でアンケートを実施した。実習後アンケートは、実習の学びについて自由記述欄を設けた。本研究にCOIはなく、倫理委員会で承認された(承認番号1049)。RIPLSは19項目で構成され、学生が多職種協働を志向する知識や行動を身に着ける準備状態の測定尺度である。最高スコアは95であり、「チームワークと協働」「Interprofessionalの機会」「専門性」のサブカテゴリー3つに分かれ、実習前後のスコアを統計的分析(t検定)し、有意水準 $p < 0.05$ とした。

【結果】

アンケート回収は15名/19名であった。RIPLS全体スコアの平均は実習前74実習後76であった。サブカテゴリー平均スコアは「チームワークと協働」で実習前53実習後52、「Interprofessionalの機会」で実習前9実習後9、「専門性」で実習前14実習後13であった。実習前後全てのスコアで $p > 0.05$ であった。自由記述欄は「専門職としてだけでなく、1人の人として患者さん、地域の人と関わることが大事だと分かった。」等の地域に関する記述が多く見られた。

【結論】

本研究はRIPLSを中心としたアンケートによって地域多職種協働実習の教育効果を評価した。令和4年度履修学生を対象とした結果では有意差がなかったが、RIPLS全体スコアは実習前後で3%上昇した。学会では令和5年度履修学生も加えた2年分のアンケート結果を発表予定である。

地域多職種協働実習での学び
～夕張市の地域包括ケアシステムを通して～

中野 景悠¹⁾, 安江 憲治¹⁾, 篠崎 真枝²⁾, 堀田 和司³⁾,
齊藤 瑛梨⁴⁾, 山口 忍⁴⁾, 前沢 政次⁵⁾

- 1) 茨城県立医療大学 保健医療学部 放射線技術科学科
- 2) 茨城県立医療大学 保健医療学部 理学療法学科
- 3) 茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療法学科
- 4) 茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科
- 5) 宮城県 涌谷町町民医療福祉センター

【活動報告】

本学は、地域多職種協働の学部教育として地域包括ケアシステムを構築している北海道夕張市等で実習を行う地域多職種協働実習を令和4年度から実施している。本実習は、自治体の地域概要や保健・医療・福祉等のプライマリケアの現状を概観し、自治体における多職種連携協働について考えを深めることを目的としている。

私は令和5年9月12日-15日に夕張市で実施された地域多職種協働実習に参加した。見学をした診療所では、地域の方が受診する外来病棟と介護が必要な高齢者向けの介護医療院が併設されており、医療と介護が一体となって提供できる環境となっていた。また、夕張市が実施している高齢者向けの介護予防事業に地域の方と一緒に参加した。介護予防事業の後にはご飯会があり、介護予防だけでなく、地域の方の憩いの場となっていた。

市役所では地域包括ケアシステムの概要や実際の事例を伺い、地域医療において、行政が重要な役割を果たすことが分かった。また、医師、ソーシャルワーカー、社会福祉士、保健福祉課等の方で行っているグリーゾーンカンファレンスに参加した。このカンファレンスでは、医療で手の届かない地域の方に対して円滑に包括的な支援を実施できるよう、情報共有していた。

社会福祉協議会では夕張市委託事業である生活支援サポーター養成講座に参加した。生活支援サポーターは、医療や介護では支援できない高齢者等の地域住民に対して支援を行う人である。この制度によって、地域住民同士で支えあいながら生活できる環境構築をして、地域住民が住み慣れた地域で不自由なく過ごすことができると感じた。

本実習に参加して、今後の高齢化社会において医療のみではなく、地域を理解して、介護や行政、地域住民が協力し、情報共有することで包括的な支援を実施できることが理解できた。

学年早期から地域多職種協働を学ぶ意味
－専門性がより深まる夕張市役所福祉総合ケース会議から－

渡辺 心優¹⁾, 安江 憲治²⁾, 堀田 和司¹⁾, 篠崎 真枝³⁾,
齊藤 瑛梨⁴⁾, 山口 忍⁴⁾, 前沢 政次⁵⁾

- 1) 茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療法学科
- 2) 茨城県立医療大学 保健医療学部 放射線技術科学科
- 3) 茨城県立医療大学 保健医療学部 理学療法学科
- 4) 茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科
- 5) 宮城県 涌谷町町民医療福祉センター

【活動報告】

茨城県立医療大学では、地域保健・医療・福祉で必要な多職種連携について学ぶ「地域多職種協働実習」が行われている。今回、私たちは夕張市での実習で多くの学びを得る機会となった。

夕張市は炭鉱で栄えた市で、山間には炭鉱で働いていた方の炭鉱住宅が点在する。実習では2公民館での介護予防事業に参加し、高齢化の現状と多職種による支援を学ぶと同時に、住んでいる方々の地域への想いをお聞きし、高齢になっても住み慣れた場所で住むこと、なじみの関係の中で生活することの大切さを学んだ。また、診療所、地域包括支援センターの活動見学や地域を支える多職種の方々との語りの会、夕張市役所福祉総合ケース会議に参加した。

特に印象に残ったのが、障害と介護保険制度の狭間に位置する方を支援する「夕張市役所福祉総合ケース会議」である。保健福祉課の保健担当、包括支援担当、学校関係者、教育委員会、福祉系関連職種の方々、医師といった専門職がテーブルを囲み、それぞれの意見を聞き必要な支援の在り方と対応策を話し合い、解決策に向けた取り組みを見いだす初めて見る多職種連携の形であり、驚きとともに大きな学びとなった。事例ごとに出席者が異なり、固定化されたカンファレンスとは異なるスタイルで当事者中心のカンファレンスと感じた。

私は作業療法学科に所属し、専門科目では専門職としての専門性を学び、多職種との違いを身に付け、アイデンティティを確立していくことが求められていると感じることが多い。地域では各々の専門性のみならず、住民の方のために何ができるかを多職種の考えや専門性から学び、専門職を超えた支援につなげることがいかに重要かを学ぶことができた。学年早期からこのような体験ができたことは、地域における専門職のあるべき姿をイメージできる有意義なものであった。